（別紙4）　令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3670101777		
法人名	医療法人リバーサイド		
事業所名	グループホームグランスウィートマリー		
所在地	徳島市川内町富久102-2		
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地　県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和3年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設周囲がレンコン畑で時期になると大きなハスの花に囲まれるのどかな環境に包まれています。利用者さまと共に過ごす事で心豊かな時間となるように努めています。年代の違った笑い声が飛びかい信頼のおける心地よい居場所として、また尊厳ある生活が提供できるようにと常に願っています。外出支援等はこの時期特に難しくなっていますが、生活リハビリに力を入れています。普通の生活の中で今までされてきたたことをしています。特別感は無いかもしれませんが、利用者様が就寝時に「明日は○○をしなければ」と思え、例えばバラ寿司の作り方を得意げな表情で話しながら材料を考える楽しみ、理念のなかの一つに『心配り』があります。利用者さまの心に寄り添ったホームづくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、畑や田んぼが広がる環境に位置している。法人が掲げる理念をもとに、“目配り、気配り、心配り”という事業所独自理念を掲げ、家庭的な雰囲気のなかで利用者一人ひとりに寄りそった支援に取り組んでいる。法人が運営する医療機関や併設の他サービス事業所等と連携を図るとともに、事業所に常勤の看護職員を配置するなど、医療の連携体制を充実することで、利用者や家族等の安心・安全につなげている。新型コロナウイルス感染症の流行下において、事業所では、利用者や家族、関係者等の声を大切に捉え、事業所のサービスに関するアンケート調査を実施するなど、意見や要望、提案等を得ることができるよう工夫している。また、出された意見等について、運営面に反映し、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『目配り、気配り、心配り』の理念の下、利用者様の生活が豊かに守られていくことで理念に沿った介護を提供している。また職員間でもこの理念は思いやりや助け合いの中で生まれている。	事業所では、“目配り、気配り、心配り”という独自の理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示したり、研修の際に伝えたりして、職員間での共有化を図っている。職員は、理念に基づき、利用者一人ひとりに寄りそった支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のだより等を民生委員の方や児童委員の方に送らせて頂きホームの状況をお知らせしている。またホーム近辺散歩の時にはご近所の方と挨拶をしたり立ち話をしている。	事業所では、日ごろの利用者との散歩の機会に、近隣住民と挨拶を交わし、地域交流を図っている。感染症（コロナ等）の流行下においても、安全面に配慮しつつ、交流の継続に努めている。また、民生委員の会議等で事業所だよりを配布し、事業所の状況を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関わりなく相談があった場合にはできる限りのことをお教えし窓口としている。また地元の利用者の家族様も多く、認知症についての質問に答えながら理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に1回の会議では地域包括支援センターや民生委員また、後見人の方等に状況報告をし、他施設はどうなのか？など助言をもらいサービスの質の向上に繋げている。ここ近年は書面会議となっているがご意見を頂くこともある。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、書面会議を実施し、電話等で意見を得ている。また、会議とあわせてアンケート調査も行い、出された意見や結果等について、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口を訪問し、報告や相談を行っている。今の状況では電話での相談や指導助言を頂いている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の取り組み等について報告・相談するなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。制度改正時や困難事例の発生時等には、電話や書面等で相談するなど、日ごろの連絡・相談体制も整備している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員間で研修や現場の中で理解行い、身体拘束の排除に努めている。利用者の人格を尊重できるケアを常に目指している。	事業所では、定期的に、身体拘束廃止委員会や研修会等を開催している。ベランダや物干し場等を活用し、利用者にとって閉塞感がないよう工夫している。職員は、言葉かけ等に配慮しつつ、拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく様々な面から無意識に虐待に繋がってしまう危険性がある事を職員間で周知行っている。また職員自身の健康面や精神面も大きく関わってくることで事業所、職員間の協働が必要であると考える。		

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用されている方がおり後見人の方と常に関わる事ができている。また運営推進会議で他の参加者に成年後見人制度についてお話頂いたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には書面と面談で説明を行い、納得を得ている。また内容変更時には説明文を送り同意書をもって納得された意思確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談については窓口を設けている。利用者、そのご家族には話しやすい環境をつくり多くの関わりを持てるように努めている。また当施設に話しにくい時は重要事項説明書に各行政機関が設けられている事の説明も行っている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見を聞き取っている。家族等からは、電話等で個別の意見や相談等を聞いている。玄関に意見箱を設置するなど、話しやすい環境づくりに努めている。把握した意見等をもとに協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーミーティングで職員が提案できる機会を設けている。提案には職員みんなで考え現場に取り入れたりしている。また個人的に代表者や管理者に話しやすい様に心がけている。	管理者は、日ごろから、職員が意見や提案等を出しやすい雰囲気づくりに努めている。毎月の職員会議や随時のフロアミーティングなど、意見を出す機会を多く設けている。出された意見等をもとに、職員間で協議し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして代表者は職員の資質を見極めながら職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で定期的に研修を行っている。職員1人ひとりの経験年数や能力に合わせた指導を心がけ、それぞれが現場力に繋げて行けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内の職員の声を聞いたりまた、同業者の職員さや管理者の悩み事を共有し資質向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のお気持ちを真摯に受け止めながら傾聴することで信頼関係に繋げて行けるように努めている。利用者を尊重していくこで、要望にもお応えできるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の葛藤されるお気持ちに寄り添いながら理解し、安心して本音を話せるように専門性も示しながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者とご家族の思いを受け取り、今、何が必要なのか、望まれているのか可能な限り窓口となり柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去に体験した役割等を見出しながら家庭的な暮らしと、豊かな人間関係を支え合える関係性に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様同様、職員も家族様のお力が無ければ利用者お一人ひとりに合った支援を支えてはいけないことを認識している。一緒に悩み喜び解決等していくことで対等な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会時に仲が良かった友人と一緒に来て頂いたり、馴染みのお店のお菓子を召し上がって頂くなどしている。行き来できない人にも馴染みの場所の話などして回想しながら楽しんだり懐かしがって頂くなど行っている。	事業所では、家族等の協力を得て、面会時に利用者の友人と一緒に来てもらうなど、馴染みの関係継続を支援している。感染症の流行下においては、日ごろの会話のなかで、馴染みのあるお菓子について聞き取り、買ってくるなど、関係が途切れることのないよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事前後のテーブル拭きや洗濯物たたみを一緒にしたり同じ空間でお茶を飲んで世間話をするなど常に利用者が関われる環境作りに努めており共同生活の楽しさやまた煩わしさも大切な関わりとして支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内施設等に転居された時には職員が訪問したり入居者をお連れしたりしている。また退所されているがご家族様を通じてご様子を伺ったり相談事をお聞きしたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりがそれぞれの想いを表現しやすい環境作りやコミニュケーションを図りながら利用者の思いや希望などの把握に努めている。また職員間で情報の共有をしながら利用者の意向に沿えるよう努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、食事や入浴、排泄の支援等、本人が気持ちよく感じる機会に意見を聞き取るなどして、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様がいる利用者は把握しやすいが当施設では身寄りのない方も多く以前の生活について情報がほとんどない場合がある。日常生活の状況から以前の生活や暮らし方を重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者お一人ひとりの生活リズムや心身の状態の把握はできている。また介護記録や申し送りで日々とは違った状況も共有できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の変化を見逃さないように常に職員間で情報収集を行い家族や医療との連携を図りながら介護計画の作成に役だてている。	事業所では、利用者一人ひとりの心身状況の変化にあわせた介護計画を作成している。必要に応じて、理学療法士や福祉用具専門相談員等の意見も得ている。定期的に計画を見直すとともに、入・退院時等には随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や申し送りノートの活用、フロアミーティングなどで情報を共有しながら職員のきづきやケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや、家族様や病院との時間調整や薬の情報等の連携のお手伝いを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との挨拶や老人会からの敬老のお祝いが届いたりと温かい環境の中で地域の住民として関わることができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし受診の支援を行っている。原則居宅療養管理指導にて対応を行っている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科を受診する際は、家族等の協力を得ている。また、定期的な訪問看護や往診を受けるなど、法人が運営する医療機関とも適切に連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康について介護職と看護職の連携に努めリバーサイドのぞみ病院との連携により週に1回、訪問看護の実施により常に職員が報告相談ができる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできるだけ必要な情報を提供できるようにしている。本人、家族様の不安や希望を病院関係者との連携を密に図れるように普段からの信頼関係に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の際に、重度化や終末期について施設ができることと出来ないことの範囲を説明している。本人と家族の希望に最大限に応えていけるように主治医や看護、介護と常に連携を図っている。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。随時、本人の心身状況の変化に応じて、法人が運営する医療機関等と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関の連携のもと、施設内研修をおこなっている。初期対応の重要性について意識を高め、実践力を身につけていくことができるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を同グループ内の利用者、職員と一緒に地元の消防署の支持のもと訓練を行っている。災害時の発生時に備えて、食料や飲料水の準備を行い定期的に物品のチェックを行っている。	年2回、消防署等の協力を得て、避難訓練を実施している。同一法人が運営する他サービス事業所と連携・協力を図りつつ、地震や火災、水害などを想定した訓練に取り組んでいる。また、備蓄品を2週間分準備するなど、防災意識を高く持ちつつ、災害に備えている。	

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人ひとりの、身体面、精神面、社会面について尊厳に注意を払う大切さを職員間で確保できるように努めている。また、ケアの現場ではその場でその職員にあった指導が行えるようにしている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの人格とプライバシーの確保に努めている。特に、排泄時には、言葉かけや声量等に配慮しつつ、気持ちに寄りそい、丁寧な対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の介護現場でも自己選択、自己決定ができるように支援しています。些細なことでも職員が気づくことができ、利用者が満足し納得できるような支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にある目配り、気配り、心配りを中心に支援をしており、利用者のペースの中で職員が暮らしのお手伝いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大切な1日の始まりにお好きな色やお気に入りの服を選んで頂くことを大切にしています。2～3か月に1度は訪問美容も来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はお一人ひとりの摂取形態に合わせて提供している。テーブル拭きから始まり食後には下膳やお盆拭きをしている。利用者同士の「ご飯よ～」の声掛けは安らぎを感じることができる。	食事は、利用者一人ひとりにあわせた形状で提供している。食事前には、利用者同士で食事開始の声かけを行うなど、家庭的な雰囲気づくりに努めている。また、地域からの差し入れの野菜で味噌汁を作ったり、手作りのおやつを提供したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日の記録で把握できるようにしている。好みも含めてその日の状態にできるだけ合わせた支援を行っている。介助が必要な方とは大切なコミニケーションの時間と捉えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣としている。自らのケアが困難な場合は介助を行っているが歯ブラシは手に持って頂くなど意識の理解に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者お一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本と考えている。利用者にストレスがないようにその方にあった誘導の声掛けも工夫している。	事業所では、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。できる限りトイレで排泄できるよう、声かけを工夫している。個別の身体状況や性格にあわせて、本人がストレスを感じることのないよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になってしまう前に対応できるように心がけている。排泄の最終日を確認できるようにし、食事量や水分量、また精神面や総合的に原因を考え、必要時には医療との連携を図り指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴時間を設けているがその時ばかりではない。入浴することが楽しみの一つになるように支援しています。また入浴支援は利用者のお気持ちの理解に繋がると考えている。	事業所では、週2回は入浴することができるよう取り組んでいる。入浴希望時間が重なった場合はじゃんけんで決めるなど、楽しく入浴できるよう工夫している。また、季節にあわせて、ゆず湯や入浴剤を使用し、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて臥床時間を設けたり、基本は自由にしていただいている。布団などは好みの質感を家族様の協力を得たり、本人の希望をお聞きし安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高齢者なので、服薬の支援には医療との連携をしっかりと図り、すぐさまに報告連絡、相談ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活でされてきたことの継続の支援に繋げている。掃除や洗濯たたみやおやつ作り等。また季節を追っての行事や散歩で気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ近年は難しいが、家族様の協力でお墓参りに行かれたり、外食に出かけられたりしていた。今では環境の良い施設周辺の散歩を重度の方も車いすで一緒に風を感じ日向ぼっこをしたりしている。	事業所では、気候のよい日に、利用者と一緒に近隣の散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、テラスで日光浴を行うなど、外の空気を感じることができるよう工夫している。また、現在、移動販売の車の利用も検討している。	

自己	外部	項　目	自己評価　Aユニット 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いは施設事務所にて管理し、家族様には月ごとに明細をお送りしている。また、お財布を持つことで安心される方には家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様のもと高齢者向けの電話を持たれ使用している方もいる。充電などは職員が行っている。また家族様から施設に電話がかかった時には利用者と話して頂くこともある。手紙には返事のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方がリビングで過ごされることが多いためBGMや季節を感じられる装飾をしたりテーブルや椅子の位置に配慮している。快適に過ごして頂けるよう空調にも気遣っている。	共用空間は、明るく、掃除が行き届いている。壁面には、季節の飾り付けを行い、四季を感じることができるよう工夫している。椅子やテーブル等の配置を工夫し、動線やスペースなどを確保している。定期的に、換気や消毒を行うことで、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけではなく、和室の前に椅子を置き、TVを見たり、気の合う方と並んで話されたりできる居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や趣味のものを置かれたりしながら居心地の良い空間づくりを行っている。	居室は、利用者一人ひとりに馴染みのある家具や家電等を持ち込んでもらうことで、家庭に近い環境で生活できるよう支援している。本人が使いやすいよう、家具の配置を工夫し、居心地よく過ごすことができるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりがあり、居室からの自立歩行がし易くなっている。一人ひとりの歩行能力や認知機能の理解に努めながら、それぞれの生活導線を把握し状態に応じた見守りを行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『目配り、気配り、心配り』の理念の下、利用者様の生活が豊かに守られていくことで理念に沿った介護を提供している。また職員間でもこの理念は思いやりや助け合いの中で生まれている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のだより等を民生委員の方や児童委員の方に送らせて頂きホームの状況をお知らせしている。またホーム近辺散歩の時にはご近所の方と挨拶をしたり立ち話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居に関わりなく相談があった場合にはできる限りのことをお教えし窓口としている。また地元の利用者の家族様も多く、認知症についての質問に答えながら理解に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に1回の会議では地域包括支援センターや民生委員また、後見人の方等に状況報告をし、他施設はどうなのか？など助言をもらいサービスの質の向上に繋げている。ここ近年は書面会議となっているがご意見を頂くこともある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口を訪問し、報告や相談を行っている。今の状況では電話での相談や指導助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員間で研修や現場の中で理解行い、身体拘束の排除に努めている。利用者の人格を尊重できるケアを常に目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく様々な面から無意識に虐待に繋がってしまう危険性がある事を職員間で周知行っている。また職員自身の健康面や精神面も大きく関わってくることで事業所、職員間の協働が必要であると考える。		

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用されている方がおり後見人の方と常に関わる事ができている。また運営推進会議で他の参加者に成年後見人制度についてお話頂いたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には書面と面談で説明を行い、納得を得ている。また内容変更時には説明文を送り同意書をもって納得された意思確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談については窓口を設けている。利用者、そのご家族には話しやすい環境をつくり多くの関わりを持てるように努めている。また当施設に話しにくい時は重要事項説明書に各行政機関が設けられている事の説明も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアーミーティングで職員が提案できる機会を設けている。提案には職員みんなで考え現場に取り入れたりしている。また個人的に代表者や管理者に話しやすい様に心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして代表者は職員の資質を見極めながら職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で定期的に研修を行っている。職員1人ひとりの経験年数や能力に合わせた指導を心がけ、それぞれが現場力に繋げて行けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内の職員の声を聞いたりまた、同業者の職員さや管理者の悩み事を共有し資質向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のお気持ちを真摯に受け止めながら傾聴することで信頼関係に繋げて行けるように努めている。利用者を尊重していくこで、要望にもお応えできるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の葛藤されるお気持ちに寄り添いながら理解し、安心して本音を話せるように専門性も示しながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者とご家族の思いを受け取り、今、何が必要なのか、望まれているのか可能な限り窓口となり柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去に体験した役割等を見出しながら家庭的な暮らしと、豊かな人間関係を支え合える関係性に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様同様、職員も家族様のお力が無ければ利用者お一人ひとりに合った支援を支えてはいけないことを認識している。一緒に悩み喜び解決等していくことで対等な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会時に仲が良かった友人と一緒に来て頂いたり、馴染みのお店のお菓子を召し上がって頂くなどしている。行き来できない人にも馴染みの場所の話などして回想しながら楽しんだり懐かしがって頂くなど行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事前後のテーブル拭きや洗濯物たたみを一緒にしたり同じ空間でお茶を飲んで世間話をするなど常に利用者が関われる環境作りに努めており共同生活の楽しさやまた煩わしさも大切な関わりとして支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内施設等に転居された時には職員が訪問したり入居者をお連れしたりしている。また退所されているがご家族様を通じてご様子を伺ったり相談事をお聞きしたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりがそれぞれの想いを表現しやすい環境作りやコミニュケーションを図りながら利用者の思いや希望などの把握に努めている。また職員間で情報の共有をしながら利用者の意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様がいる利用者は把握しやすいが当施設では身寄りのない方も多く以前の生活について情報がほとんどない場合がある。日常生活の状況から以前の生活や暮らし方を重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者お一人ひとりの生活リズムや心身の状態の把握はできている。また介護記録や申し送りで日々とは違った状況も共有できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の変化を見逃さないように常に職員間で情報収集を行い家族や医療との連携を図りながら介護計画の作成に役だてている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や申し送りノートの活用、フロアミーティングなどで情報を共有しながら職員のきづきやケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添いや、家族様や病院との時間調整や薬の情報等の連携のお手伝いを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との挨拶や老人会からの敬老のお祝いが届いたりと温かい環境の中で地域の住民として関わることができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし受診の支援を行っている。原則居宅療養管理指導にて対応を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康について介護職と看護職の連携に努めリバーサイドのぞみ病院との連携により週に1回、訪問看護の実施により常に職員が報告相談ができる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできるだけ必要な情報を提供できるようにしている。本人、家族様の不安や希望を病院関係者との連携を密に図れるように普段からの信頼関係に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の際に、重度化や終末期について施設ができることと出来ないことの範囲を説明している。本人と家族の希望に最大限に応えていけるように主治医や看護、介護と常に連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関の連携のもと、施設内研修をおこなっている。初期対応の重要性について意識を高め、実践力を身につけていくことができるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を同グループ内の利用者、職員と一緒に地元の消防署の支持のもと訓練を行っている。災害時の発生時に備えて、食料や飲料水の準備を行い定期的に物品のチェックを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人ひとりの、身体面、精神面、社会面について尊厳に注意を払う大切さを職員間で確保できるように努めている。また、ケアの現場ではその場でその職員にあった指導が行えるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の介護現場でも自己選択、自己決定ができるように支援しています。些細なことでも職員が気づくことができ、利用者が満足し納得できるような支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にある目配り、気配り、心配りを中心に支援をしており、利用者のペースの中で職員が暮らしのお手伝いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	大切な1日の始まりにお好きな色やお気に入りの服を選んで頂くことを大切にしています。2～3か月に1度は訪問美容も来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はお一人ひとりの摂取形態に合わせて提供している。テーブル拭きから始まり食後には下膳やお盆拭きをしている。利用者同士の「ご飯よ～」の声掛けは安らぎを感じることができる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日の記録で把握できるようにしている。好みも含めてその日の状態にできるだけ合わせた支援を行っている。介助が必要な方とは大切なコミニケーションの時間と捉えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣としている。自らのケアが困難な場合は介助を行っているが歯ブラシは手に持って頂くなど意識の理解に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者お一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本と考えている。利用者にストレスがないようにその方にあった誘導の声掛けも工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になってしまう前に対応できるように心がけている。排泄の最終日を確認できるようにし、食事量や水分量、また精神面や総合的に原因を考え、必要時には医療との連携を図り指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴時間を設けているがその時ばかりではない。入浴することが楽しみの一つになるように支援しています。また入浴支援は利用者のお気持ちの理解に繋がると考えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせて臥床時間を設けたり、基本は自由にしていただいている。布団などは好みの質感を家族様の協力を得たり、本人の希望をお聞きし安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高齢者なので、服薬の支援には医療との連携をしっかりと図り、すぐさまに報告連絡、相談ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活でされてきたことの継続の支援に繋げている。掃除や洗濯たたみやおやつ作り等。また季節を追っての行事や散歩で気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ近年は難しいが、家族様の協力でお墓参りに行かれたり、外食に出かけられたりしていた。今では環境の良い施設周辺の散歩を重度の方も車いすで一緒に風を感じ日向ぼっこをしたりしている。		

自己	外部	項　目	自己評価　Bユニット 実践状況	自己評価 実践状況	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお小遣いは施設事務所にて管理し、家族様には月ごとに明細をお送りしている。また、お財布を持つことで安心される方には家族様と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様のもと高齢者向けの電話を持たれ使用している方もいる。充電などは職員が行っている。また家族様から施設に電話がかかった時には利用者と話して頂くこともある。手紙には返事のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方がリビングで過ごされることが多いためBGMや季節を感じられる装飾をしたりテーブルや椅子の位置に配慮している。快適に過ごして頂けるよう空調にも気遣っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけではなく、和室の前に椅子を置き、TVを見たり、気の合う方と並んで話されたりできる居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や趣味のものを置かれたりしながら居心地の良い空間づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりがあり、居室からの自立歩行がし易くなっている。一人ひとりの歩行能力や認知機能の理解に努めながら、それぞれの生活導線を把握し状態に応じた見守りを行っている。		